

令和6年度 北海道博物館 博物館実習評価基準

大分類	No.	項目名\評価	努力を要する	やや努力を要する	概ね達成されている	よく達成されている	達成の程度が高い
			1 (D)	2 (C)	3 (B)	4 (A)	5 (S)
A・実習態度と基本スキル	a	自己管理能力と勤務態度	適切な服装と言葉遣いや時間管理ができない。	適切な服装と言葉遣いであるが、時間管理に課題がある。	適切な服装と言葉遣いで、時間通りに行動する。	健康管理も含めて自己管理ができ、率先して準備や後片付けを行う。	自己管理が適切で、他の実習生の手本となる行動をとる。
		具体例：	度々遅刻や欠席をする。忘れ物が多い。	集合時間に遅れることがある。忘れ物はないが、整理されておらず必要に応じてすぐに取り出せない。	決められた時間通りに行動できる。	体調管理に気を付け、実習を休むことがない。実習内容に応じて、追加の持ち物を自主的に用意できる。	常に整理整頓された状態を保ち、他の実習生の見本となっている。他の実習生のサポートもできる。
	b	事務能力と記録力	基本的な記録作業に問題がみられる。	基本的な記録作業はできるが、内容が不十分。	必要な情報を漏れなく記録し、整理できる。	記録を分析し、自身の考えを加えて表現できる。	学芸員の視点で記録を取り、将来の活用を見据えた整理ができる。
		具体例：	書類の記入方法がわからず、空欄のまま提出する。	実習日誌は毎日書くが、内容が浅く具体性に欠ける。	実習中の出来事や学んだことを漏れなく記録している。	日々の実習記録として、学びや気づきをまとめている。適切に情報が整理されている。	実習記録に将来の展示や研究に活用できそうな視点を盛り込んでいる。
	c	協調性と適応力	他者と協力せず、実習の環境に適応しようとしない。	指示されれば他者と協力し、最低限の適応はする。	自主的に他者と協力し、実習の環境に順応する。	チームの中で自分の役割を見出し、積極的に貢献する。	チーム全体の効率を高める行動をとり、環境改善に貢献する。
		具体例：	グループワークで自分の意見を押し通そうとする。	説明を受ければ新しい作業方法を試みるが、積極的ではない。	新しい作業環境や方法に対して、前向きに取り組む姿勢を見せる。	自身の役割を適切にこなし、他の実習生が困っているときに、自主的にサポートする。	グループの課題に対して、柔軟に役割を調整できる。
	d	積極性とリーダーシップ	自身の意見がない。積極性がない。	自身の意見を考えるが、議論には参加せず単に同調するのみ。	議論の中で自分の意見を述べることができる。	積極的に意見を提案し、議論を活性化させる。	多様な意見を整理し、グループの議論へのリーダーシップを発揮する。
		具体例：	課題に対して何も考えようとしない。議論を聞こうともしない。	意見を持っているが、常に「はい」と答えるだけで意見を述べない。発言する機会があっても黙っている。	グループディスカッションで、少なくとも1回は発言する。	新しいアイデアを自発的に提案し、他の実習生の反応を求める。	全体の進行を把握し、適切に分配・指示ができる。意見の対立があった際、双方の利点を活かす解決策を提案する。
	e	情緒の安定性と持続力	ストレスに弱く、簡単な作業も途中で投げ出す。	ストレスを感じても作業は続けるが、集中力が続かない。	地道な作業を最後まで集中して行える。	困難な状況でも冷静に対処し、長時間の作業をこなせる。	あらゆる状況でも冷静に対処し、他者のサポートもできる。
		具体例：	細かい作業にすぐに苛立ち、途中で放棄する。小さな失敗で気落ちして、作業が止まる。	長時間の作業で疲れを見せ、ミスが増えたりペースが落ちたりする。	資料整理などの単調な作業でも、最後まで丁寧に取り組む。	締め切りが迫った状況や困難な状況でも、焦らずに効率的に作業を進める。	自分の作業の進行は止めずに、他の実習生へ適切なアドバイスや励ましをして全体の作業の質を高める。
B・学芸員としての資質と専門性	f	学習意欲と研究態度	与えられた課題にも取り組まない。	与えられた課題には取り組むが、それ以上の興味を示さない。	疑問点を質問し、自主的に調べる姿勢を見せる。	疑問点に対して、積極的に資料を探し、自身の考えとして落とし込む。	疑問点に対して、他者と議論するなど、考えを発展させるよう取り組む。
		具体例：	課題の提出期限を守らない。資料に目も通さない。	最低限の課題は提出するが、追加の質問や調査をしない。	実習中に疑問点があれば、その場や日誌などで質問する。	図書室や展示室などで、自主的に学習する。学んだ内容を体系化し、自身の考えを深める。	疑問に感じた課題に対して自身で調べた上で、周囲を巻き込んでもう一段階発展させる意欲を見せる。
	g	技術的能力と細心さ	資料の扱いに問題がみられる。	基本的な取り扱いはあるが、細心の注意が必要な作業は避ける。	指示された通りに丁寧に資料を扱える。	資料の状態を観察し、適切な取り扱い方法を選択できる。	高度な技術を要する資料でも適切に扱い、他者に指導できる。
		具体例：	資料を乱雑に扱い、損傷のリスクがある。	脆弱な資料の取り扱いを躊躇する。	資料の特性に応じた適切な取り扱い方法を実践できる。	資料の状態を正確に把握し、最適な取り扱い方法を提案できる。	複雑な技術を要する作業も適切に行い、他者に指導できる。
	h	創造性と問題解決能力	問題に気づかず、新しいアイデアを出そうとしない。	問題に気づくが、解決策を考えようとしない。	既存の方法を応用して問題解決を試みる。	独自のアイデアで問題解決を図る。	複数の問題に対して他者のアイデアを統合し、新たな価値を創造する。
		具体例：	明らかな問題があっても気づかない、または無視する。	問題を指摘するだけで、具体的な改善案を考えない。	過去の事例や経験を参考に、問題への対処方法を考える。	問題の本質を分析し、新しい角度からアプローチを考える。	複数の問題を統合的に捉え、周囲のアイデアを踏まえて包括的な解決策を実現する。
	i	教育・支援能力	博物館における教育活動に関心を示さない。	博物館の教育活動に興味を示すが、具体的な方法は理解していない。	博物館の教育活動について自分なりの考えを持ち、簡単な企画を提案できる。	来館者の学習ニーズを考慮した教育的アプローチを提案できる。	博物館資料を活用した独創的な教育プログラムを考案できる。
		具体例：	教育プログラムの説明を聞いても、無関心な態度を示す。	来館者の質問に答えられるが、効果的な説明方法を工夫できない。	特定のテーマについて、簡単なワークショップ案を考えることができる。	年齢層や興味などの対象を設定し、教育プログラム案を提案できる。	博物館の特色を活かした、独自の教育プログラムを企画立案できる。
	j	博物館機能への理解と適応	博物館の基本的な機能を理解していない。	博物館の基本的な機能は理解しているが、自身の考えを持っていない。	博物館の基本的な機能を理解し、学芸員の業務と実習内容とを関連付けられている。	博物館の基本的な機能を理解するだけでなく、地域社会において博物館の役割について考えを持つ。	博物館の基本的な機能や社会的役割を理解し、現代的な課題もふまえて自身の考え・理想を表現できる。
		具体例：	収集・保存、調査研究、展示、教育といった基本機能を区別できない。	基本的機能の理解をした上で、その背後にある作業過程を想像できない。	実習プログラムが博物館の機能ににどう結びつくか説明できる。	博物館の機能が、地域社会においてどのような意味を持つのか、自身の言葉で説明できる。	地域社会における博物館の役割に対して、デジタルや多様性、観光など現代的な視点も踏まえた考えを表現できる。